
超非日常学園

プラシド12世

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超非日常学園

【Nコード】

N0642X

【作者名】

ブラシド12世

【あらすじ】

ここは、超非日常学園。ここではあらゆる作品のキャラクター達が生徒あるいは先生として通っている。

今日も、楽しくキャラ達がアホな事件を巻き起こす。

次はどんな事件が起こるのだろうか……それは誰も知らない。

「参戦作品」

日常、めだかボックス、銀魂、ハヤテのごとく、ネギま、瀬戸の花嫁、エルシャダイ、聖、おにいさん、もやしもん、くそみそテク

ニツク、HELISING、ストライクウィッチーズ、ギャグマンガ日和、ドラゴンボールシリーズ、最強の弟子ケンイチ、Angel Beats!、荒川アンダーザブリッジ、Fate/stay night、IS、美味しんぼ、これはゾンビですか？、黒執事、けいおん、とある魔術の禁書目録、とある科学の超電磁砲、境界線上のホライゾン、魔法少女まどか マギカ、魔法少女リリカルなのは、スーパーロボット対戦OGシリーズ、バカとテストと召喚獣、ワンピース、生徒会の一存、文学少女シリーズ、涼宮ハルヒちゃんの憂鬱、けんぷファー、アスラクライン、ひぐらしのなく頃に、うみねこのなく頃に、ギャグマンガ日和、チャージマン研、スパイダーマン、セーラー服と重戦車、Steins;Gate

第一話：時定高校の消失（ただしなののみ）（前書き）

処女作です。

誹謗・中傷は受け付けませんが、感想・コメントは待っています。
キャラ崩壊は当たり前ですが、行きすぎたら報告してください。

第一話：時定高校の消失（ただしなののみ）

ここは、日本の何処かにあると思われる時定高校。

この高校の放課後、ある四人の女子高生が下校している途中である。茶色い短髪の元気そうな相生祐子、青い髪と木の四角形の髪留めで短めのツインテールにした長野原みお、黒の長髪で無口そうな女の子の水上麻衣、黒い短髪と背中の中のネジがチャームポイントの東雲なの。

この四人は言わずと知れたアニメ『日常』主人公達である。

彼女達は途中まで同じ道を歩いていたが、それぞれの家に帰る為別れる事になる。

その四名の女子高生の内一人である、東雲 なのが今回の物語メインである。

彼女は我が家である東雲研究所に向かってゆっくりと歩いている時の事である。

なの

「んっ？」

彼女は、落ちてある物を見つけた。

正方形の『青い宝石』である。

それは、とても綺麗な物だったのできつと持ち主も探しているだろうなと思ったなのには宝石を拾い交番に届けようと手を伸ばしました。

すると次の瞬間……………、

なの

「きゃっ!?!」

突然、宝石がまばゆい光を出し、辺り一面光に包まれた。
なのの目が辺りを確認出来る様になった時にはその宝石は影も形も
無くなっていました。

なの

「(さっきの宝石……………何だっただろ?)」

この様になのは思いましたが、その肝心な宝石が無い以上何も出
来ません。

なの

「(気のせい……………かな?)」

そう思いながら東雲なのは帰路に着きました。

～翌日の朝～

東雲なのは、極々普通に時定学校に向かっていた。

学生の朝は早く下手をすると遅刻しかねません。

しかし、なのはネジを除けば何処にでもいそうな女子高生なので遅
刻するようなバカではありません。

何より、なのは学校生活を楽しみにしており、毎日が有意義な日々
なのです。

そんななのなのですが、いつものように歩いているとある違和感
に気付きました。

そう、見かけない制服の学生や私服の人達がなのの通っている時定
高校の方向に向かっていてではないか。

なのも最初は『まさか』、ただの偶然ですよ。』と思いました。だ

って、こちら辺に時定高校以外の高校は存在しないのだから。
しかし、時定高校に到着時、彼らはなのと同じ所に向かっていると
わかった。

否、そこは時定高校ではなかった。

そこには、時定高校の何百倍もある敷地、グラウンド、数多の校
舎、それは東雲なの知っている時定高校ではなかった。
そして、なのは顔を真っ青にして唖然とするしかなかった。
だって、自分の知っている学園が無くなっていたら誰だって動揺す
るだろう。

真面目にどうするか迷っていたら後ろから肩を叩かれたので振り向
いて見ると。

ゆっこ

「なのちゃん、スマラッパギー。」

そこにはなのの親友である相生祐子が元気よく挨拶して来たので
ある。

しかし、学校変貌が余りショックなのか、なのは何も言えないまま
突っ立てる。

ゆっこ

「あれ？スマラッパギー無視？」

なのにとってマジで困っているの、挨拶どころではないのだ。

ゆっこ

「ほらほら、なのちゃん。」

そんな所に立っていると皆の通り道の邪魔だから早く教室行こうよ。

「

ゆっこの言う通り今は通学時間である以上、校門で立たれるのは邪魔以外の何者でもない。

しかし、なのにも気になる事がある。

その為、親友の中でも最も裏表のないゆっこに聞いて見たことした。

なの

「あ、あの相生さん。此処って時定高校ですよね。」

ゆっこ

「時定高校？この近くそんな高校ないよ？」

なのは驚愕した、あの時定高校は存在しなくなっていたのだ。

なの

「では、この学校は何なんですか？」

ゆっこ

「なのちゃん何言ってるの？」

こっは、

超非日常学園だよ。」

そして東雲なのを含めたキャラ達による非日常な学園生活始まる。

第一話：時定高校の消失（ただしなののみ）（後書き）

次回予告

新たに始まった東雲なのの学園生活果たしてはどんな事件が起こるのだろう。

次回『私の学園生活がこんなにカオスな訳がない。』
お楽しみに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0642x/>

超非日常学園

2011年12月27日20時54分発行